

ヤエヤマウラナミジャノメとの初の出会いは1995年11月、西表島の大富林道から仲間川を見下ろす第一展望台へとつながる林内へと入り、くねくねと細い道をたどって下りる途中で、足元のくさむらを飛び遊ぶ本種を採っている。路傍足元から林床にかけて、幼虫が食べるチジミグサの仲間が見られたので、この周辺が発生地となっていたようだ。この道沿いにはツル性のヤマイモの仲間も立ち木にからみついでいて、産卵目的で訪れる♀や、その♀を追いかけるコウトウシロシタセセリも観察している。1997年には石垣島の於茂登岳登山道へと続く林道沿いで発生していたが、台風によるがけ崩れがあって以降、個体数が激減したようだ。

1995年11月3日：自然観察路の案内板が立つ広場から細い下り道をたどって展望台まで降りてみる。途中の林で滋賀の布藤さんがバンナ公園でねらっていたヤエヤマウラナミジャノメを採る。また、ヤマイモ科植物様の白い花をターゲットにすばしっこく飛翔するコウトウシロシタセセリもこの林で2頭採る。展望台には父親と幼い女の子2人の家族連れがいて、ちょうど帰ろうとするところで入れ違う形となる。上の広場に止めてあった四輪駆動の家族だろう。女の子達は「さようなら」を繰り返しつつ急坂の階段を登って帰って行く。展望台から仲間川を望む景色は

天然のジャングルが広大な緑のジュウタンのごとくに



展開しており、それはすばらしいながめだ。タイミングよく観光船のエンジン音が上流から次第に下流へと消えていく。ここからさらに下れば、もっと身近にジャングルの様子が体験できるかも知れないが、古見の部落と、さらに時間が許すなら南風見田海岸の防風林近くにも行ってみたいので早々にひきあげる。

1997年9月21日：この広い三叉路を突っ切って登るとうっそうとした樹林のトンネルに入る。足元に花類はないがいかにもヤエヤマムラサキがでてきてもよさそうな環境である。と、やはりいた。林の奥からクロアゲハが現われたその時、まさしくヤエムラがひらりと飛び出して己のテリトリーへの進入者であるクロアゲハを追い立てたのである。後翅縁の白条が特徴的でヤエヤマムラサキだと分かり緊張する。追飛が終わって近くの木の葉裏に逆さに静止したところをサッと下からすくうと完全体のままで入る。前翅端に白紋を有し、わずかに前翅両縁に紫の幻光がみられる新鮮みだ。初めてのヤエムラ新鮮体を捉えたうれしさに、しばらくは心臓の高鳴りがおさまらない。結局ヤエムラはこの1頭のみで、このあと踏み込んだオモトへの登山道でヤエヤマウラナミジャノメを2頭採ってオモト林道での採集を終え、長いアスファルト道路を下って公民館のある広場に向かう。



オモト林道 Sep.21,1997 ヤエヤマムラサキ♂